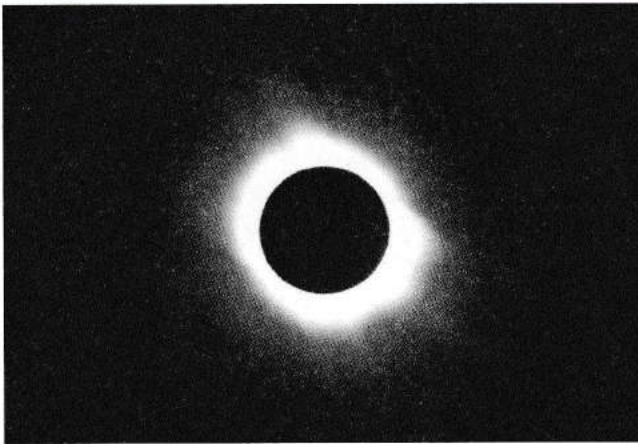


2014年3月1日

発行：大阪府立旭高等学校 図書教養部広報係  
大阪市旭区高殿5-6-41  
TEL 06-6951-3133  
<http://www.osaka-c.ed.jp/asahi/>

## 黒い太陽を求めて

理科 植村 和彦



日食は太陽と地球の間を月が通過して太陽を覆い隠す現象です。皆既日食では太陽が完全に隠れて夜になり、「黒い太陽」の周囲に白いコロナの流線がうねって世にも不思議な光景が出現します。

皆既日食や金環日食はほぼ毎年地球上のどこかでおこりますが、皆既日食を自宅で観られる確率は400年に一度だともいわれています。つまり地球上の非常に狭い範囲でしかおきないのです。

皆既日食を観るためにはその狭い範囲(皆既帯といいます)に出かけていかななくてはなりません、必ずしも行けるとは限りません。南極や北極、大洋の上などなかなか行けない場所や行っても揺れる機上や船上ではよい観望条件とはいえません。私たちアマチュアが皆既日食を観るには陸の上が好条件なのですが、紛争地帯で外務省から危険な地域として渡航禁止令が出ていたりテロの危険にさらされることも珍しくなく、せっかく好条件なのに人間の作った国境が邪魔をしてしまうのです。

さらに日程や費用の問題で結果的に皆既日食を観に行けるチャンスは数年に一度ということになってしまいます。2012年11月にはオーストラリア北東のケアンズ(Cairns)まで4年ぶりに皆既日食観望に出かけてきました。ここ以外では皆既帯は陸上を通りません。

成田空港では同じ飛行機に乗る人の中に見知った顔を発見してしまいました。普段連絡を取り合うこともありませんが、かつてフランス日食で一緒だった人、トルコ日食で知り合った人などと再会を果たして、考えることは同じなんだとつくづく思っています。皆さん日食の魅力に取り憑かれてしまった人たちで、一度人知を越えた「黒い太陽」という現象を体験してしまうと次も観たくなるのは人間の本能ではないかとすら考えてしまいます。

現地では前日に観測場所の下見にも行きます。自分がどの位置に陣取るかはとても大事で、他の方の邪魔にならないようまた他の人に邪魔されない場所選びは慎重にしなければなりません。皆既中は暗闇になりますが懐中電灯も禁止なので立ち歩いて観測機材を引っかけたりすれば目も当てられません、方角を確かめて望遠鏡やカメラ三脚を置く場所にしっかりマーキングしておきます。

今回の皆既日食は日の出直後から欠け始め、午前7時40分に皆既となります。皆既時間は約2分、ダイヤモンドリングが見えるのはわずか数秒です。開始3時間前の午前3時に現地に到着し頭上を見上げると真上に天の川とさそり座が見えます。真っ暗な中で機材をセットしその時を待ちます。東の水平線に太陽が顔を出し15分後には雲間から上部が欠けた真っ赤な太陽を観ることができましたが、無情にもその後は雲に隠れてしまいました。

ツアー会社のタイムキーパーさんがカウントダウンしながら食分(どれくらい欠けているか)を読み上げていきますが肝心の太陽は雲の向こうにあります。皆既になるまで残り1分を切っても雲が去る気配はなく、周囲が一気に暗くなりカウントダウンを始めて「5、4、3、2、1、皆既になりました…」周囲から深いため息が聞こえてきます。わずか2分の皆既が始まりましたが、雲に隠れて顔を出しません。皆既終了まで残り30秒……一気に歓声が沸き上がりました。急に雲が薄くなり黒い太陽が現れました。あわてて望遠レンズを太陽に向けようとしたのですが、残り数十秒でできることは限られています。それでもシャッターを切りながらダイヤモンドリングをしっかりと目に焼き付けることができました。薄雲を通しての写真は出来のよいものではありませんでしたが、それでも6年ぶりに黒い太陽に出会えました。

自然現象が相手ですから、しっかり準備して行っても雨や雲に邪魔されることもあります。そのたびに次こそはと条件をチェックしてしまいます。今回は2015年早春の北極海、さらに2016年春にインドネシア・北太平洋、2017年夏に北アメリカ横断と続きます。すべてに参加できるとも限りませんが気持ちだけでも今から準備を始めることにしましょう。



2009年 中国日食にて





# 留学体験記

## アルゼンチン留学

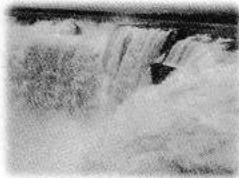
3年A組 福留 麻衣

南米のアルゼンチン共和国へ1年留学していました。普通、留学はアメリカなどを想像されると思います。皆からは「何で?」とよく聞かれるのですが、あまり誰も行かず、行く機会のない国を知りたかったからです。飛行機を乗り継いで約26時間かけて行きました。

アルゼンチンの人たちは思いやりがあって、我が強くて感受性が豊かで、とてもテンションが高いです。スペイン語もまともに話せなかった私に優しくしてくれて分からないことも丁寧に教えてくれました。知らない人にもよく声を掛けられました。

私が一番思い出に残っていることは世界遺産に2つ行けたことです。1つ目のイグアスの滝は世界三大瀑布の1つです。2つ目のロス・グラシアレスは氷河で一面氷で出来ていました。

私は留学してたくさんのことを学べました。日本の良さを改めて感じ、両親にも感謝し、スペイン語も多少は身に付け、アルゼンチンの友達や他国の留学生と仲良くなり、何より他の人が出来ないことを経験することが出来ました。



## 韓国留学

3年A組 西原 弥央菜

私はもともと韓国に興味があったのですが、旅行ではなく今しかできないことをしたいと思い、夏休みに1ヵ月間韓国ソウルに短期留学をしました。

一番驚いたことは、韓国の学生の勉強量です。朝7時45分から学校が始まり、毎日7時間授業、選択授業を受け、夜ご飯の給食を食べ、夜9時まで自主的に自習をしていました。授業中もみんな真剣で、日本との学力の差を感じました。休み時間などは友達と楽しく過ごしていて、学校は世界共通で楽しい印象を受けました。

高校だけではなく名門大学や幼稚園に行けたり、アメリカやオランダの学生と交流する機会もあり、とても貴重な経験ができ毎日充実した生活を送ることができました。

そして、ホストファミリーや学校の友達が日本に興味を持つようになり日本語を勉強していたのがとてもうれしく、この留学で学んだことを活かし、これからも国際交流をつづけ、日本の良さを伝えていきたいと思います。



## アメリカ(サンフランシスコ)を訪れて

3年B組 東 香織

私は、夏休みにアメリカ(サンフランシスコ)に2週間の短期留学をしてきました。サンフランシスコは、シリコンバレーなどで有名で、大企業であるTwitter、Google、Yahoo!を訪ねることができました。印象的だったのは、充実した休憩スペースがあったことです。人工のビーチでバレーを楽しんでいる社員さんたちはとても楽しそうでした。



この短期留学を通して一番学べたことは、自分の力不足です。カリフォルニアの名門大学を見学し、そしてサンフランシスコ州立大学で実際に3日間授業を受けたのですが、教授が何を言っているのかがまず聞き取れない、質問できないといった、今まで経験したことのない焦りを感じました。ですが、そこで諦めずに話をしっかりと聞き、ノートを取りました。最終日の最後の授業で、漸く一度だけ発言できた時には、焦りに代わって胸から込みあがる達成感を感じました。まだまだ力不足で、2週間では出来なかったこともあります。この最高の経験を胸に、自分の目標に向かってどんどん力をつけて、不慣れな環境に一步踏み出して成長できる機会を、これからも自分で作っていこうと思います!

## ニュージーランドにラグビー留学をして

2年2組 村尾 直広

7月27日から8月11日までの16日間、ニュージーランドのウェリントンカレッジにラグビーの短期留学をしました。海外は初めてではありませんでしたが、1人で行かなくてはならなかったのととても不安で緊張しました。日本とは季節が逆で冬だったので、少し寒かったです。

平日は、カレッジの同学年の人と一緒にラグビーの練習をしたり、英語や日本語、観光学などの授業を受けたり、カレッジの先生と同じプログラムに参加している日本人の学生と町の観光などをしました。休日は、ホストファミリーと過ごしたり、ラグビーの試合観戦に行きました。

日本と少し違うと感じたのは、ラグビーの練習をするときだけでなく、どんな時でも積極的な人がとても多いことでした。そこは、少し自分も見習わなければならないと思いました。

約2週間という短い留学期間でしたが、日本とは違う文化の人たちと交流でき、また、世界一といわれるニュージーランドのナショナルチームの試合を見たり、同じ年代の人と練習を行ったりすることができてとても有意義な時間を過ごせたと思います。そして、もし、ラグビーに少しでも興味のある人は、ぜひ体験でもいいので部活に来て一緒にラグビーをやりたいです。





# 修学旅行報告

数学科 西田 光秀

私たち普通科61期・国際教養科21期は、昨年10月13日から10月16日までの期間、台湾へ修学旅行に行き参りました。入学当初は、香港・マカオ・深圳の予定でしたが、国際情勢の影響等により、途中で変更せざるを得ない状況になりました。直前まで慌ただしい準備でしたが、現地の治安状態や受け入れ態勢は非常に良好で、無事行程を終了することができました。

1日目、A団(2,6組)、B団(4,7,A組)、C団(1,3,5,B組)と3団に分かれて出発。先発はA団、1時間後に後発BC団が、関西国際空港から桃園(台湾)国際空港まで3時間のフライト。到着するや否や一言「あつ〜」。この日の気温は30℃には達していなかったものの、日本の気候とは異なる亜熱帯気候(北部)を直接肌で感じました。空港を出ると、現地のガイドさんに温かく迎えられ早速バスに乗り、クラス毎に中正紀念堂と孔子廟へ向かいました。蒋介石の功績を讃えて建てられた中正紀念堂と、儒教の始祖として有名な孔子が祀られている孔子廟で、それぞれ歴史について学びました。初日の夕食は、北京料理。丸焼きの北京ダック披露に生徒は驚きを隠せない様子でした。その後、AB団は台北101へ、C団は夜市へ行きました。台北101は、世界最高速のエレベーターで5階から89階までわずか37秒。高さ382mの展望台に上がれば、360度見渡すことのできる美しい夜の眺望を体験することができました。夜市は、屋台がたくさんある通りを散策。

食べ物だけでなく洋服やアクセサリー等の雑貨もあり、買い物等で楽しみました。その後、ホテルにチェックイン。明日の活動に備えて就寝となりました。



2日目、午前は龍山寺、忠烈祠を観光しました。多くの神様が祀られていることで有名な龍山寺では、それぞれ独特のしきたりがあり、生徒たちは学問や恋愛等それぞれ興味のある箇所を願いごとをしていました。忠烈祠では、緊迫感あふれる衛兵隊の行進をじっと見入っていました。熱心に写真を撮っている生徒もいれば、做って行進する生徒もいました。昼食は石鍋料理を食べ、午後は、淡水高級商工職業学校との交流を体験しました。敷地は大学のキャンパスのような広さ、そのままバスで門を通過すると多数の淡水校生が出迎えており、一人ひとりの手には担当する本校生徒の名前を書いた紙を高く掲げて手を振っていました。まるでこちらが有名人になったような気分のおもてなしを受け生徒も思わず笑みが。おかげで生徒もすぐに溶け込むことができ、全体交流の会場へ誘導されて行きました。全体交流では、それぞれの学校長(本校は教頭)からの挨拶、生徒代表の挨拶の後、淡水校生が太鼓やダンス、吹奏楽等を披露。旭校生も有志が集まった人たちがソーラン節を披露しました。その後、グループ別に分かれての交流。スポーツや体験学習など19種の

活動に分かれてさらに交流を深めました。最後に全体でお礼の言葉を述べ、全体写真を撮り、お礼の品を渡してお別れしました。握手やハグをしたり涙したり等別れを惜む場面も見受けられました。挨拶を英語や中国語で披露したA組の山本さんと立花さん、最後の挨拶には5組の比嘉さんと6組の天野くん、ソーラン節紹介をした4組の中馬さんと登喜さん、1組平田くんをはじめ、懸命に踊ってくれた有志の皆さん、力を発揮することができてとても良い経験になったと思います。2日目の夕食の台湾料理を食べた後は、1日目とは逆にAB団が夜市へ、C団が台北101へ行き、ホテルへ戻ってきました。



3日目、映画『千と千尋の神隠し』の舞台のモデルとなった九份(きゅうぶん)と近隣の十分(じゅつぶん)の街へ。石畳の道に細かく長い路地、多種多様な店が並び、郷愁漂わせる九份の街は2時間近くの散策で十分堪能したようです。昼食は郷土料理を楽しみました。十分の街では、線路の上で天燈上げ体験。毛筆を



片手に約1m四方の紙に願いごとを書き、気球の原理と同じように火の力で上空に飛ばしました。みな無事上空へ上げることができました。体験途中には突然大きな笛の音

で一旦線路から離れる指示が!何かと思えば、実際に目の前を列車がゆっくりと通過しました。これも十分ならではの見ものの一つ。その後、台北市内に戻り、街を散策。おみやげを買ったり、マンゴー等人気のあるスイーツを飲食したりして過ごしました。最後の夕食は、広東料理を食べて最終日に備えホテルに早めに帰ってきました。

4日目、最終日は短めの散策として免税店(DFS)にも立ち寄り、その後、世界4大博物院の一つと言われる故宮博物院へ。代表的な所蔵品である『翠玉白菜』など69万点以上もの中国の美術品や所蔵品を鑑賞しました。

最後の昼食は有名人もよく利用するといわれる、圓山(まるやま)大飯店へ。結婚式場としても利用される大部屋で今までよりも少しリッチな昼食をいただきました。その後、空港に向かい帰国の途に着きました。

体調を崩したりケガをした生徒もいましたが、何とか行程通り終了することができました。多くの生徒が初めての異国文化を体験し何かを感じたことと思います。(感じて終わるのはよくあることなので)その貴重な体験を、次はぜひ行動に移してほしいと願っています。帰国後、生徒のアンケートをとりました。全体の印象の満足度は約89%、中でも台北101が約90%で最も高く、その他の名所も多くが70%を超える満足度だったようです。食事は改善したつもりでしたが、平均約40%の生徒が少口に合わなかったそうです。それぞれのご家庭の味が一番なのかもしれませんね。





# 2013 イングランド旅日記



今年のイギリス組は担当を決め、日記を書きました。生徒の日替わりの旅日記

## <イングランドライフ:基本タイムテーブル>

7:30	朝点呼(ミーティング)	朝食
9:00	午前講習	
12:30	昼食	
14:00	午後講習	
18:30	夕食	
19:45	アクティビティタイム	
22:00	夜点呼	
23:00	消灯	

### ●7月20日(土)

イギリスに無事到着しました。到着後、すぐにテストや面接がありました。むずかしかったです。

次に、サッカーをしました。他国の人たちと話す場面が何回もあったのですが、何を言っているのかわからなくて、すぐに話が途切れてしまい悔しいと思いました。日本に帰るまでに少しでも長く話したいです。

### ●7月21日(日)

体育科 見戸 健一

今日はヨークに行ってきた。日曜日ということもあり、多くの観光客が国内外から訪れていて街は賑わっていました。また自転車競技のレースもあり、お祭りムードも満載の一日でした。旭高校生は午前中は市内観光、午後はフリーで散策並びにショッピングを楽しみました。

夜はサッカーの大会があり、旭チームは健闘しましたが、イタリア、ロシアチームに連敗でした。イベントを通じた国際交流はキックオフしたばかりでこれからが楽しみです。

昨日は、到着後すぐにクラス分けテスト(ペーパーとスピーキング)があり、明日の朝成績発表のあと、いよいよレッスンが始まります。

### ●7月22日(月)

初授業。みんなの感想は"Very difficult"『なにを言ってるかわからなくて、泣きそうになった』『疲れた』などのマイナス面ばかり!

午後はアクティビティでバスケットをしました。試合をする前にスタッフの方数人と軽い運動をし、英語でコミュニケーションをとりました。文が言えなくても"Next!"や"Nice!!"などの単語で会話しました。

今、一緒に勉強しているのはイタリア人とロシア人です。イタリア人はすごく話すのが好きです。例えば、3、4人が一斉に話しかけてきたりします。でも、「コンニチハ～」など知ってる日本語を使うようになって、温かくておもしろくて、すごく好きになりました!!

夜はディスコ。初めは日本人みんなが端の方でかたまっていたけど、時間がたつにつれてだんだんなれてきて、イタリア人とダンスするようになって友達が増えました(^\_^)b

明日は朝と昼両方授業やからしんどいけど、今日できた友達と頑張ろう~!

### ●7月23日(火)

授業二日目。まだ先生の言うことがわからないこともあるけど、イタリア人と受ける授業は新鮮です。

お昼にタコスのような食べ物を食べました。大学で食べる食事は、思っていた以上に美味しかったです。水も全然いけました。昼楽しんだので、午後からの授業も頑張ろうと思えました。イギリスでの生活はとても充実しています。

### ●7月24日(水)

朝の授業でイタリア人の友達といっぱいしゃべり、劇をしました。完成していないけど楽しかったです。

昼は大学から30分ぐらい歩き、公園でイタリア人とバレーボールをしました。とても上手でした。失敗をしても、責められたりしなかったのが良かったです。歩くのは疲れたけど、楽しかったです。

晩ご飯のメインは魚でした。そろそろ日本食が食べたくなくなります。でも、ここのパンはおいしい!

### ●7月25日(木)

今日はマンチェスターユナイテッドスタジアムとマンチェスターユナイテッドミュージアムを見学しました。

スタジアムでは、普通では見ることでできない選手たちが実際に使用している部屋を見たり、貴重な体験をしました。その後、ミュージアムでは実際にカカなどの選手が使用していたユニフォームやスパイクをはいたり、着たりしました。サッカーはあまり好きではありませんが、楽しかったです。

授業が難しすぎるけど、あとちょっと頑張ります。

### ●7月26日(金)

午前にレッスンがあり、お昼を食べて二階建てのバスに乗ってノッティンガムの街に出かけました。2時間の中でとても良い買い物のできてうれしく楽しかったです。

夜のアクティビティは映画とクイズ。映画では『パイレーツオブカリビアン2』を見ました。英語ばかりで内容はよく分からなかったけど雰囲気を楽しみました。



### ●7月27日(土)

朝からバクストンとチャッツワースへ行きました。まずバスで2時間かけて温泉の地、バクストンへ行きました。次に30分かけてチャッツワースへ行きました。城や庭があって、とてもきれいで、楽しかったです。

夜は、カジノをしました。偽物のお金で、チームごとに分かれて、競馬・ブラックジャック・ルーレット・ジエンガなどをしました。





## ちーむASAHI in イングランド



記事を編集して紹介します。

宿舎に帰るとき、すごい雨で傘が少なかったので、2人で1本ずつ使い帰ろうとしたら、イタリア人が間に入ってきて、結局、彼は濡れなかったけど、日本人は、びちゃびちゃになりました。イタリア人は、ちゃっかりしてるなと思いました。

### ●7月28日(日)

freedayだったので、午後からノッティンガムに行きました。市バスで向かい、現地の人たちにインタビューをしました。内容は①ノッティンガムの有名なものは何か、②日本に対してどんなイメージを持っているか、③旭生へのメッセージを尋ねたところ、温かく答えてくれました。1人目はエチオピア人の方で、2人目の方は子連れの方で、①・②それぞれ、「ロビン・フッド」、「Very nice!!」でした。③の内容についてはとても嬉しい内容でした。このような経験が初めてでき、とても良かったです。夜のアクティビティはバレーボールのトーナメントで、各チーム約8人ずつに分かれて試合をしました。日本VSイタリアでも試合をしましたが、やっぱりイタリアは強かったです。結果は1位、2位ともイタリアだったけど楽しかったです。

### ●7月29日(月)

みんながゆっくりとした雰囲気です1日が始まりました。最後の授業で、1時間目からしんみりとした雰囲気が感じられました。午後からの授業もクイズゲームなどをたくさんしたり、クラスメイトの好きな曲を授業で聴いたりしてみんなで楽しみ、最後はみんなで「Thank you」と言い合って別れを惜しみました。

夜はタレントショーをしました。日本は、ご飯の友やジブリ、駄菓子、ファッション、遊び、習字を紹介しました。

イタリア人は洋楽を歌ってくれました。Elacの人が作ったらしいフィルムも、ジョークのセンスがさすが外国人という感じで本当に面白かったです。チーム旭で団結して協力し合い、日本人とイタリア人関係なく、みんなで楽しみ盛り上がりしました。

### ●「旭高校生ノッティンガムなう」 社会科 佐藤 功

あれほどやかましく感じたイタリア人の  
さ わぎ踊る姿に驚き早や10日た つ  
ひ たすらわかったようなふりをして  
こう習いのぞんだ日々が懐かしい  
「うち、何言うてるんか全然わからん!」  
「こんなオレ、本当に話せるようになるの、英語が?」  
う そみたい。いつの間にか皆「ノープロブレ ム!」  
「せ かいの共通言語ってやっぱり「笑顔」なんだ な」  
い っしょうモンの経験と思い出胸に、さあ今、旅立とう。



## 1年 レシテーションコンテスト

英語科 鳥山 淳子

今年のレシテーションコンテスト(英語暗唱大会)は、普通科がキング牧師の「I Have A Dream」、国際教養科がヘレン・ケラーの「The Story of My Life」。夏休みの宿題で、まず暗記練習。2学期、授業が始まってからは、CALLシステム等も利用して、毎時間少しずつ練習しました。10月、授業で予選を行ったあと、各クラス代表1名(国際教養科は2名)を決め、11月26日(火)体育館にて1年生全員で行いました。どの代表者も暗唱発表を堂々と行い、客席から盛大な拍手をもらいました。

普通科優勝者

1年6組 小林 祐哉

国際教養科優勝者

1年A組 飯山 りの



## 国際教養科2年

### 校内スピーチコンテスト

英語科 坂本 優美子

11月21日のコンテストにはクラス代表として選ばれた6人以外にも、10月に校外のコンテストに参加したA組日高さんの発表、また留学生のA組エミリーさんの日本語スピーチの発表もありました。どの発表もそれまでで最高の出来でした。聴衆である生徒達も発表者の気迫迫る発表を食い入るように見ていたのがとても印象的です。

どの生徒も一年時に比べると確実に力をつけていることが分かり、またこの人がこんなことと思ってたのだなあという驚きもあり、指導者としてタフな仕事でありながら非常に美りの多い内容になりました。

高口呼春、大東天音、桐島優香の上位3人は2月1日に行われた「使える英語プロジェクト」生徒発表会に出場し、旭のメッセージを伝え、見事ベストパフォーマンス賞を受賞しました。

### 第二外国語暗唱大会 「星の王子さま」を独・仏・中・韓・西・伊の 6言語で・・・

英語科 鳥山 淳子

12月18日(水)3時間目、国際教養科の2年生が「星の王子さま」の暗唱大会をおこないました。クラス予選を勝ち抜いたペア2組が、「肝心なことは目に見えないんだよ…」という部分のキツネと王子さまの会話をドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、スペイン語、イタリア語の6言語で演じました。大阪府下でも、6言語を学べるのは、旭高校だけです。国際教養科の2年生は、友だちの発表に声援を送りながら、暗唱大会を楽しみました。アメリカからの留学生のエミリーさんは、フランス語の発表をしました。優勝した6ペアは、2月1日(土)、大阪府咲洲庁舎にて、大阪府教育委員会主催の「使える英語プロジェクト」生徒発表会で、「星の王子さま」を6言語で見事に演じました。





## オーストラリア語学研修



英語科 内藤 瑞恵

2013年7月21日午前8時、アデレードに到着しました。シンガポールでの乗り継ぎ待ち時間も含めると、閑空を出発してから約1日かかりました。

空港ではアデレード高校のヘレン先生に出迎えていただき、直接バスで、学校へ向かいました。

学校では、ホストファミリーとのドキドキの初対面を行いました。それまでホストファミリーとうまくやっていたか、食事が合うか、英語がわかるかなどの不安ばかりを口にしていた生徒達でしたが、ホストファミリーに笑顔で温かく迎えられ、握手やハグを交わすうちに、安心した様子で表情も和らぎました。

翌22日より、約2週間に渡るアデレード高校での語学研修プログラムが始まりました。アデレード高校では、Welcoming Assembly（歓迎集会）に始まり、旭高校の生徒達のために特別なプログラムが用意されていました。

午前中は、主にターナー先生の英語の授業を受け、英語だけではなく、オーストラリアンイングリッシュでの挨拶の仕方やオーストラリア人がランチに何を食べるかなど、オーストラリアの生活や文化について、様々なことを学ぶことができました。

午後からはアデレード高校の生徒が受けている授業のいくつかに参加させていただきました。パディ(旭高校生のホスト)とともに行動し、実際にアデレード高校の生徒達と触れ合い、自分の英語が少し通じた興奮で生徒達は大喜びでした。参加させていただいたどの授業も旭高校の生徒が理解しやすく、アデレード生と一緒に学べるように工夫されていました。

特に印象に残っているのは、アデレード高校生が学習する日本語の授業です。アデレード高校の生徒達が旭高校生に対する質問を事前に考え、日本語でインタビューするという内容でした。旭高校の生徒達は、アデレード生が日本語の丁寧語を使い、流暢に話す姿に感心していました。また、語彙の豊かさ、表現の多様さにもたいへん驚いていました。生徒達は自分達が英語を学んでいる期間よりも、アデレード生が日本語を学んでいる期間の方が短いに関わらず、日本語がとても上手であるということを目の当たりにし、「もっと、英語がんばらなあかんわ。」と感想を述べるなど、英語学習に一層努力しようと思意を高めていました。同じように外国語を学んでいる高校生の姿と自身を比べることで、自身の英語力を客観的に見る良い機会になったと思います。

2週間というほんの短い間でしたが、実際にオーストラリアの家庭に入り、現地の高校に通う高校生と接するなど有意義な時間を過ごすことができました。

また、遠方で植物園や美術館、近郊の観光地に出かけるなど貴重な体験もできました。生徒達それぞれは、実際に見たり触れたりすることを通して「オーストラリアって、日本と違うんやなあ。でも、おもしろい!!!」と体全体で感じることができました。異文化に興味をもち、理解していく土台になる非常に貴重な研修を行うことができました。



### 生徒の感想からの抜粋です

昼ごはんはホストマザーが作ってくれたお弁当だった。でも、今まで食べたことがない料理で全部食べることができなかった。不安な気持ちでいっぱいのまま残ったお弁当を持って帰り、ホストマザーに正直に言った。怒られるかと思った。でも、ホストマザーは「ニワトリのえさになるから大丈夫!」とってくれた。まさか、そんな答えが返ってくると思わず、ホストマザーと一緒に笑ってしまった。(1年 K.M)

私はこの2週間で本当に成長できたと思います。始めの頃は自分から話しかけようとせず、質問されれば答えることばかりでした。でも、いつの間にか私の心の中にもっと英語で話したいという気持ちが生まれ、相手に通じたり、英語を聴きとれたりする嬉しさも覚えました。私は人生でこのような経験ができて本当に良かったと思います。(1年 R.I)

家に帰ったら、全部英語で、時々自分の言いたい事が伝わりにくかったこともありました。だけど、ホストファミリーは丁寧に私の話を聞いてくれて、とても嬉しかったです。自分の中で研修がこんなに大きなものになるとは思っていませんでした。ただ楽しかっただけじゃなくて、違う言語で会話することの難しさや、違う文化の中で暮らすことでたくさんのことを学べました。出発前は2週間であまり、変化は起こらないだろうと思っていたけど、最後の日にはもっと英語がうまくなりたいと思うようになりました。(1年 K.A)





# 旭高校の姉妹校 サトリ・シ・スリヨタイ・スクール 旭高校へ ようこそ!

英語科 鳥山 淳子

10月18日(金)から26日(土)まで、10人のタイの生徒と先生方(ドンダーオ先生とモク先生、河本先生)が旭高校に来られました。ホストファミリーもすべて旭高校の生徒のご家庭。

18日(金) ホストファミリーとの対面式。常に和やかな雰囲気の中、行われました。

21日(月) 1年2組、1年4組、1年A組、1年B組、2年4組、2年B組のバディの生徒のクラスに入って、授業と一緒に体験。4時間目の美術と5,6時間目の竹内先生による日本語授業は、タイの生徒だけの特別授業。フランスからの留学生2年B組のエマも初日です。



22日(火) 3,4時間目は3年生のフードの調理実習に参加。肉じゃがとすまし汁。おいしくいただきました。7時間目は1年AB組と視聴覚教室で交流会。タイダンスを披露していただきました。

24日(木) 3,4時間目は3年課題研究。5,6時間目は2年国際理解で今昔館へ。放課後、職員会議でご挨拶。いただいたプレゼントを披露。



25日(金) 放課後、茶道部にお茶会を開いてもらって、お抹茶とお菓子をいただきました。



27日(日) 京橋駅で涙のお別れ…

「受け入れて良かった!」「家でも国際交流できて、楽しかった」という感想をいただきました。ホストファミリーを引き受けていただいたご家庭の皆さま、本当にありがとうございました。



## イングリッシュバスツアー to 京都

英語科 池田 かおる

10月20日、タイの姉妹校、サトリ・シ・スリヨタイ・スクールの生徒と先生方、旭のホストの生徒とACBF等の生徒、PTAのお母さん方と教員、合計50名の参加でした。

バスの中では、ACBFが中心となり、英語による自己紹介と他己紹介、また、目的地の説明も行われました。

まずは清水寺へ。スリヨタイの生徒たちは、タイ語で絵馬に願い事を書いたり、お土産屋さんを見て回ったりして楽しんでいる様子でした。続いて、刺繍館で美しい和食の昼食と、八つ橋作りの体験。八つ橋作りでは、プレーンとチョコ味、イチゴ味の3種類を作りました。思ったより簡単で、スリヨタイの生徒も上手に作っていました。最後に金閣寺を訪れました。朝から降り続いた雨も上がり、あちこちで、美しい金閣寺をバックに写真を撮るスリヨタイと旭の生徒の姿が見られました。

1日行動を共にし、交流したことで、スリヨタイの生徒とも旭生同士も仲良くなり、有意義なバスツアーとなりました。企画・準備等でご尽力いただいたPTA国際交流委員の皆さま、ありがとうございました。



## 「大阪くらしの今昔館」見学について

国語科 藤本 佳子

10月24日、「国際理解」の授業で、天神橋筋六丁目にある「大阪くらしの今昔館」を見学しました。

参加者は、国際教養科2年生、サトリ・シ・スリヨタイ・スクールの生徒10人とタイの先生方、留学生3人、本校教員4人でした。

本校生徒にとって、自分たちの住む「大阪」を知る機会として、また、国際交流の場としても、有意義な見学会になりました。

本校オリジナルのクイズつき「しおり」を持参して、生徒達も熱心に見学していました。小学生の時にも来たことがあるが、高校生になって観ると、新たな発見があって「大阪」に興味を持ったという生徒の感想も多数見られました。

タイの生徒達や留学生は、「浴衣」を着て写真を撮ったり、昔遊びを体験し、しばし「昔の大阪」へのタイムスリップを楽しんでいました。

来年度以降も継続したいと考えています。





# 留学生の ひろば

..... Thank you! .....

今年度はタイからノット君が長期で、フランスからエマさんが短期で本校で学びました。

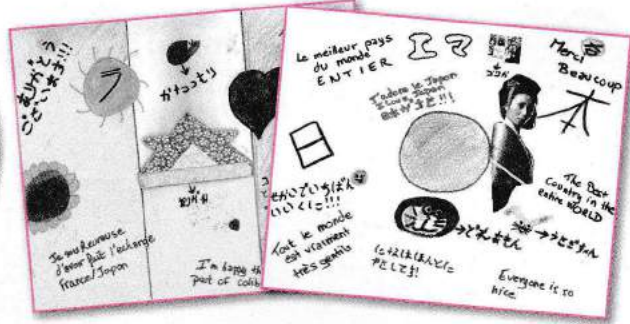
国際理解の授業や色々な行事を通して、旭生とふれあい、日本の文化に親しんでいました。二人からのメッセージをご覧ください。



ノット君



エマさん



## ● 現在、旭で勉強中の留学生紹介 ●



アメリカ  
←エミリーさん  
(2年A組)



ドイツ  
レオニーさん→  
(1年B組)

## 教養講座 1月28日

今年の教養講座は関西フィルハーモニー管弦楽団によるクラシックコンサート、と書くと堅苦しいけれど、生徒の皆さんにも楽しんでもらえたようです。旭高校の校歌が始まって、“のだめカンタービレ”のテーマ等、聞いたことのある曲も多く、藤岡幸夫さんの指揮も素敵でお話も分かりやすかったです。



吹奏楽部22名と有志1名が参加した2曲もワクワクしました。一緒に演奏できただけでなく、藤岡さんや関フィルのメンバーが丁寧に指導して下さい、彼らにとって貴重な経験になったと思います。



## 『Asahi Youth Collection ~なりたい自分になる一日!~』

11月23日(土)、旭区民センターでファッションショーが開催されました。

旭区役所から協力の依頼があり、有志を募集しました。司会進行、ナレーター、会場スタッフ、ショーのモデル等に多数の生徒が協力してくれました。

「なりたい私」を表現する生徒、様々な民族衣装をまとったACBF(国際交流同好会)の生徒の表情は、とてもさわやかでした。

企画・準備の様子が朝日新聞に掲載されました。



## 編集後記

多くの方々のご協力で「ニュースレター」43号を発行することができました。お忙しいなか、執筆寄稿していただいた皆様に心よりお礼を申し上げます。かつて、東西の懸橋たらんとした新渡戸稲造は、国際交流こそ平和の礎と断じました。この小冊子が懸橋の一助となれば幸いに思います。(T.M.)